

読売 KODOMO 新聞 審査会

新聞コンクール力作審査

小4～高校生の277点

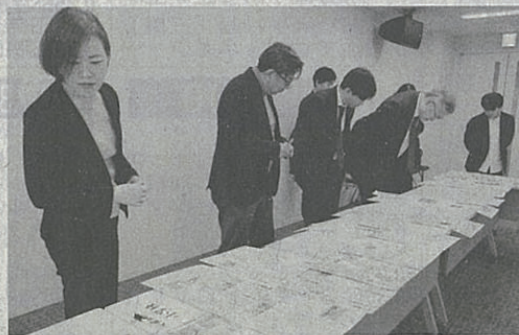
関心のあるテーマのオリジナル新聞を作ったり、出

前授業で学んだことなどを新聞にまとめたりする「第2回読売わたしのKODOMO・中高生新聞コンクール」の審査が4日、読売新聞中部支社で行われた。

県内の小学4年生から高校生までが対象。「SDGs（持続可能な開発目標）新聞コース」「わたしの学び新聞コース」「街の魅力発信新聞コース」の3部門に計277点の応募があった。

審査には実行委員会のメンバーや協賛企業などの代

真剣な表情で作品に見入る審査員ら（読売新聞中部支社で）



表らが参加し、最優秀賞、優秀賞などを選考した。作品は地元の偉人を取り上げたり、環境問題について掘り下げて考察したりした力作が並び、審査員は1点ずつ真剣な表情で評価していた。

審査を担当した紙製品製造会社「マルアイ」の村松幸樹・管理本部経営企画部長(35)は「柔らかな発想で対象に迫った作品には気づかされることも多かった。どの新聞も強い思いが伝わってきて審査が難しかった」と話していた。

表彰式は3月15日に行われる予定（受賞者は後日、読売新聞紙面などで紹介します）。

【主催】わたしのKODOMO・中高生新聞コンクール実行委員会

【後援】愛知県、名古屋市・岡崎市・刈谷市の各教育委員会

【協力】読売新聞中部支社、NPO法人ミーツビジョン

【協賛】日能研東海、名晃、マルアイ、三和油化工業